

# 物価安定政策の思い出

正示啓次郎

昭和五十四年十一月初旬、第二次大平内閣の組閣本部で、今は亡き大平総理から、経済企画庁長官になるよう命ぜられました。その時、大平さんは、労多くして役不足でしょうかと、特にいたわりのお言葉を添えて下さったことは、終生忘れられない思い出であります。当時は、イラン革命による第二次石油ショックの帰趨の見通し難から、世界の経済、日本の経済の動向について、全国民が限りない不安に襲われておりました。特に原油の供給確保、わけても原油価格と為替相場の推移如何によるいわゆる海外インフレを、ホームメイド・インフレにしないようにと、国民等しく前回石油ショックの思い出を新たにしながら、希っておったのでした。

こうした国民的願望に応えて、物価安定の責任を果たさねばならない立場に対する総理の温かいお心遣いに、満腔の謝意を表するとともに、これこそ正に男子の本懐であり、今こそ一身をなげうつて知己の恩に報いようと、不退転の決意を固めた次第でした。総理の前を退出して、新聞記者との会見に臨んだ時、最初の質問は、今まで景気と物価両にらみ政策がとられてきたがこれからもそうか、というのでありましたが、私は躊躇することなく、物価安定、インフレ克服、これこそが経済の安定的成長の基礎条件だと断言致しました。

物価の安定、インフレ克服を至上命題に掲げた新内閣の直面した最初の課題は、消費者米価引き上げ問題でした。財政再建のために、いわゆる三K赤字の解消を主張する大蔵省、生産者米価の引き上げを見送った上に水田利用再編対策を強化しなければならない政府自民党の農政財源確保の要請に挟まれて、引き上げ幅の圧縮には極

めて抵抗が強かったが、物価安定最優先の主張を買ったのも総理の力強いご支援があったればこそと感謝にたえません。消費者物価のなかで極めてウエイトの高い季節野菜、特に白菜が前年秋の台風や長雨にたたられて暴騰したため、農林水産省には野菜対策で特別の尽力をわずらわしました。当時、大平さんは会議のつど農林水産大臣の武藤さんに、野菜のことをしつかりやってくれと、繰り返し頼んでおられたお姿を、今もはつきりと記憶しております。

昭和五十四年度末、日本経済は政府見通しの通り六%強の成長を悠々と達成した上に、消費者物価についても当初の見通し四・九%を下方修正した四・七%の低い水準におさまりました。大平総理をはじめ森永さん、伊東さんのご協力が特に絶大であったことを、あらためて深謝申し上げます。この成果が五十五年の春闘相場のなだらかな妥結に寄与し、日本経済の堅実な成長実現の決め手となったことを、肝に銘じて忘れることができません。さらに四月からの新しい年度開始前に、最大の懸案であった電力料金とガス料金的大幅値上げ問題を、新年度早々実施できるように処理しなければならなかったのです。一群のうち北海道電力と沖縄電力は、逸早く処理したのですが、いよいよ最大の難問に直面して、大平さん、伊東さん、そして通商産業大臣の佐々木さんと、鳩首協議を重ねました。その時、大平さんが原油価格の見方について、往年税務署長時代に習得されたとおっしゃりながら、棚卸し資産の術語を使って、後入れ先出しでなく先入れ先出しを考えるなど、工夫の余地はないかといわれたことも、今なお鮮烈に記憶に残っております。

当時の内閣官房長官の伊東さんの話では、病床にあられた間にも、先進国首脳会議のこととともに物価動向に最後まで心を配っておられた由、最後の瞬間までお心におかけいただいたことに、重ねて深謝しますとともに、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

(衆議院議員・第二次大平内閣経済企画庁長官)